

Press Release



8. 8. 19
南予地方局

麻痺（まひ）性貝毒の終息について

- 1 本年6月5日に愛南南部地区の天然マガキから規制値（4マウスユニット/g）を超える5.9マウスユニット/gの麻痺性貝毒が検出されたことから、愛南町及び関係漁協に対し安全性が確認されるまで同地区で採捕された二枚貝を取り扱わないよう指導するとともに、立て看板を設置して住民が自家消費をしないよう注意喚起をしてきたところです。
- 2 県水産研究センターでは、貝毒の原因プランクトンの「ギムノディニウム・カテナータム」の濃度を定期的に調査し、7月22日以降、当該プランクトンが確認されなくなったことから、（一財）食品環境検査協会（神戸市）において天然マガキで貝毒検査を実施したところ、3回連続して規制値以下となり、出荷自主規制解除の要件が整いました。
- 3 これを受け、県では、愛南南部地区における麻痺性貝毒は終息したと判断しましたので、お知らせします。

○お問い合わせ先

南予地方局農林水産振興部愛南水産課

担当者：課長 黒野憲之

TEL 0895-72-1322

貝毒プランクトン調査地点、看板設置箇所及び規制区域



貝毒プランクトン濃度と貝毒検査の結果

		①	②	③	④
6月5日	濃度(細胞/ml)	0.061	0.061	0.320	0.098
	貝毒検査(MU/g)	—	—	5.9	—
7月22日	濃度(細胞/ml)	0	0	0	0
	貝毒検査(MU/g)	—	—	—	—
8月3日	濃度(細胞/ml)	0	0	0	0
	貝毒検査(MU/g)	—	検出下限未満	—	—
8月10日	濃度(細胞/ml)	—	0	—	—
	貝毒検査(MU/g)	—	検出下限未満	—	—
8月17日	濃度(細胞/ml)	—	0	—	—
	貝毒検査(MU/g)	—	検出下限未満	—	—

※危険濃度：0.1細胞/ml、規制値：4.0MU（マウスユニット）/g

近年の愛媛県における麻痺性貝毒による出荷規制事例

発生年度	発生日	終息日	継続期間(日)	発生場所	発生プランクトン種	最高貝毒量(MU/g)	最高細胞数(細胞/ml)	毒化貝種類	出荷規制日	解除日
H19	5月19日	7月25日	68	岩松湾	カテナータム	8.5	407	アサリ	H19.6.8	H19.7.25
H20	12月16日	5月18日	154	三瓶湾	カテナータム	4.9	1.21	天然マガキ	H20.12.24	H21.5.18
H22	6月14日	8月2日	50	岩松湾	カテネラ	18.9	2350	アサリ	H22.6.18	H22.8.2
H26	5月1日	7月31日	92	愛南町	カテナータム	6.6	1.07	ヒオウギ	H26.5.1	H26.7.31
H28	4月11日	7月26日	107	愛南町	カテナータム	5.8	0.44	天然二枚貝	H28.4.14	H28.7.26
H29	5月9日	8月2日	86	愛南町	カテナータム	5.2	10.40	天然二枚貝	H29.5.25	H29.8.2
H31	4月5日	9月19日	168	愛南町	カテナータム/カテネラ	140	8	天然二枚貝	H31.4.14	R19.9.19
R2	3月16日	9月19日	188	愛南町	カテナータム	38	0.93	ヒオウギ他	R2.3.18	R29.9.19
R3	4月27日	6月11日	46	吉田湾	パシフィックム(旧カテネラ)	46	—	天然マガキ	R3.4.27	R3.6.11
R3	5月25日	7月26日	63	愛南町	カテナータム	9.2	0.25	天然マガキ	R3.5.25	R3.7.26
R6	4月24日	8月19日	118	岩松湾	カテナータム	4.2	0.17	天然マガキ	R6.4.26	R6.8.19
R7	3月4日	7月24日	143	三浦地区	アレキサンドリウム・パシフィックム	150	8300	天然マガキ	R7.3.7	R7.7.24
R7	6月3日	7月24日	52	三瓶地区	アレキサンドリウム・パシフィックム	15	630	天然マガキ	R7.6.5	R7.7.24
R7	1月15日	2月19日	36	御荘湾	カテナータム	4.8	0.141	養殖マガキ	1月28日	R8.2.19
R8	4月20日			北灘湾	カテナータム	7.7	1.820	天然マガキ	4月30日	
R8	5月11日	7月8日	59	下波地区	カテナータム	7.0	21	天然マガキ	6月3日	R8.7.8
R8	6月5日			愛南南部地区	カテナータム	5.9	0.32	天然マガキ	6月9日	
R8	6月9日	7月15日	37	蔦渚地区	カテナータム	5.2	10	天然マガキ	6月12日	R8.7.15

麻痺性貝毒原因プランクトンについて



ギムノディニウム・カテナータム 8 連鎖体

【形態の特徴】

渦鞭毛藻の一種で、単独遊泳状態の細胞は伸長した卵型で、長さ $48\sim 65\mu\text{m}$ 、幅 $30\sim 43\mu\text{m}$ で、横溝が深くて幾分上方に位置する。本種はしばしば長い連鎖群体を形成し蛇のようにクネクネと泳ぐ。

【生態的特徴】

出現時の水温は $10\sim 27^{\circ}\text{C}$ 、塩分は $26\sim 35\text{psu}$ で、特徴的なシスト（植物でいう“タネ”のこと）を形成し、発芽して海水中を漂う。このシストは直径約 $50\mu\text{m}$ の球形で表面には微小な網目模様があり、海泥中に眠っている。

【特記事項】

二枚貝類の麻痺性貝毒原因種。発生密度が 0.01cells/ml 程度で二枚貝が毒化する恐れがあり、 0.1cells/ml で毒化の危険が高まる。

麻痺性貝毒について

○毒 値 : 単位はMU（マウスユニット）

（1MUとは、体重20gのマウスが15分で死ぬ毒量）

○規制値 : 4MU/g が食用の貝肉としての基準値

（昭和55年7月1日環乳第9号厚生省環境衛生局長通知「麻痺性貝毒等により毒化した貝類の取り扱いについて」）

○致死量 : ヒトの致死量は、3,000MUと言われている。

○症 状 : 食後30分程で口唇、顔面のしびれ、痛みを発し、続いて四肢の麻痺が起こり、重症の場合は、呼吸麻痺により死亡する。

○参 考 : 規制の解除については、貝毒の検査結果が3回連続して規制値を下回らなければならない。